

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006 年 11 月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割も担います。

目 次

	Pages
➤ 活動報告	1
➤ 寄稿記事	4
➤ 会議・イベント等	5
➤ 冊子・ビデオ等の紹介	5
➤ 事務局からのお知らせ	6

巻頭書記

JRRN 事務局では、更なるネットワーク活動の活性化を目指し、JRRN 会員特典の充実を目指しております。本号でも会員特典の概要をご紹介していますが、日本の河川環境の改善に向け、個人として、また所属される団体組織として、様々な形で JRRN 活動にご支援とご協力を頂ければ幸いです。

本号では、JRRN の活動として、5 月 13 日(水)に開催する「第 3 回 JRRN 河川環境ミニ講座」のご

案内や、現在事務局が取り組む「日本国内の河川再生事例収集」の進捗報告をいたします。また JRRN 会員からの寄稿記事として、先月開催された「日本橋川の舟めぐりモニターツアー」の様子を紹介します。

平成 21 年度も、国内外の河川再生に関わる情報循環と人材交流を目指して参りますので、よろしくお願い致します。

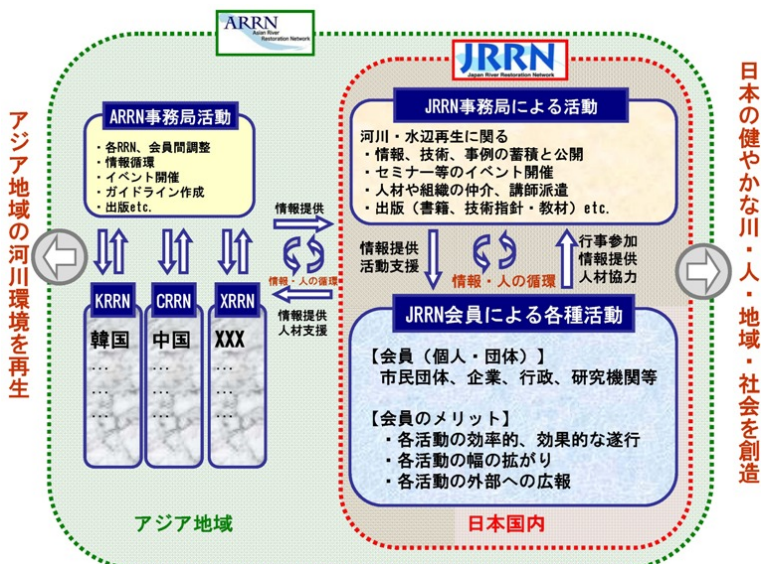
活動報告(1)

JRRN 会員特典をリニューアルしました

JRRN は、河川・流域再生に関する様々な情報を共有できる組織として、会員ネットワークを拡げながら、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目指しています。

この度、ネットワーク拡大の一環として、JRRN 会員特典について個人・団体別に整理しましたので、ご紹介致します。

JRRN 及び ARRN ネットワーク活動のイメージは右図の通りであり、河川再生に関わる JRRN 会員各位からご提供頂いた様々な情報を、国内外の必要としている人・組織に橋渡しする役目を JRRN 事務局



は目指しています。この中間支援的な役割を担うための情報基盤や人材交流の機会を提供しながら、各会員間の連携（ネットワーク化）を促進することを通じ、JRRN のミッションである健やかな川・人・地域・社会づくりに貢献して参ります。

現時点で JRRN 事務局よりご提供できる会員サービスは以下の表の通りですが、今後更に会員特典が充実する様、会員皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力 ^{※1}	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ^{※2}	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信 ^{※3}	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ^{※3}	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ^{※4}	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ^{※5}	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載 ^{※6}	◎	△ ^{※7}	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ^{※8}	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ^{※9}	◎	×	×

※ 詳細はホームページをご覧ください。 <http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>

(JRRN 事務局 和田彰)

活動報告(2)

第 3 回 JRRN 河川環境ミニ講座「環境流量からみえるアジアの風土性」開催案内

2009 年 5 月 13 日(水)、(財)リバーフロント整備センターにて第 3 回 JRRN 河川環境ミニ講座「環境流量からみえるアジアの風土性」を開催致します。

今回は、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)が発行した「河川環境再生の手引き Vol.1」が完成したことを受け、手引きの解説、意見交換を

行います。また、手引き作成に関わられた筑波大学白川先生(ARRN 技術委員)を講師としてお招きし、“環境流量からみえるアジアの風土性”についてご講演頂きます。多数のご参加をお待ちしております。

※講演概要(チラシ)は以下からダウンロード可能です
http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/3rd_JRRNseminar.pdf

- 開催日時：平成 21 年 5 月 13 日(水) 15:30～17:30
- ◆講演:環境流量からみえるアジアの風土性 白川講師(筑波大学) 15:30～16:30
 - ◆解説:“河川環境再生の手引き”について JRRN 事務局 16:30～16:50
 - ◆意見交換 16:50～17:30
- 開催場所：(財)リバーフロント整備センター会議室(東京都千代田区一番町 8 番地 一番町 FS ビル 3 階)
- 参加費：無料
- 定員：25 名(先着順)
- 主催：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- お問合せ：(財)リバーフロント整備センター 企画グループ 沼田(E-mail:info@a-rr.net Tel:03-3265-7121)

(JRRN 事務局 沼田彩友美)

活動報告(3)

国内の河川再生事例の収集状況および今後の予定

(1)河川再生事例整理の目的

日本のホームページで河川再生事例が体系的に整理されているものは、まだまだ少ない状況です。一方で、中国や韓国が日本の優良な河川再生事例の紹介を望む声は大きい状況です。ARRN は河川再生事例を各国で共有する仕組みを構築することを活動の柱の一つにしており、JRRN は日本の再生事例をホームページに公開するべく収集整理を行ってきました。

河川再生事例を体系的に整理しホームページを通して情報を共有化する目的は、中国・韓国との情報循環を活性化させるとともに日本の優良事例をアジアへ発信することです。また付加価値の高い情報を国内へ提供することにより、国内ネットワークを拡大させ情報循環を促すことも挙げられます。

(2)事例整理の基本的な考え方

事務局を担う財団法人リバーフロント整備センターは河川再生に関する事例を豊富に保有しています。そのうち公開できる情報を抽出して、体系的に整理して発信可能な情報に加工しています。

【コンセプト】

- ・ 容易に更新でき、継続的に情報の蓄積が可能なシステムを構築すること。
- ・ 事例の中から、河川再生に興味を抱くきっかけを与える情報を提供する。

【情報の抽出方法】

- ・ 河川再生の代表的なカテゴリとして、①川・湖・干潟の自然再生、②河川水質の再生、③舟運の再生、④水路の再生、⑤歴史文化の再生、⑥川とまちの再生の6つに設定する。
- ・ 過去の受賞歴（土木学会デザイン賞など）や代表的事業などを参考とした事例の他、先進的な取組

み事例を抽出する。

【ホームページへの掲載方法】

- ・ 事例を端的に表現し、興味を高める画像を採用。
- ・ 事例の紹介文は極力簡素なものとする。また、検索しやすいように、受賞歴や事業名などの特徴的なキーワードを必ず含める。
- ・ 情報を発展させるため、関連情報のリンクを設置。
- ・ グーグルマップを使って、位置情報を設定。

境川水系和泉川の再生事例(神奈川県・横浜市瀬谷区)



地蔵原の水辺(左)と関が原の水辺(右)
(平成20年5月 丹内道哉撮影)

横浜市瀬谷区・泉区を南北に縦断して流れる和泉川は、「ふるさとの川整備事業」として河川環境の整備が進められ、横浜市の河川環境整備の重点河川にも位置付けられています。河川再生を行うに当たり、1990年代前半には、和泉川流域の動植物に関する基礎調査が行われ、これら自然の生物資源を守りながら、景観、土地利用の計画が行われました。現在、和泉川は都市河川でありながら、水辺の生態系・景観・市民の利用の視点から川の持つ多様性が再生された好事例として、河川再生に取り組む関係者の注目を集めており、2005年には「土木学会デザイン賞」で最優秀賞に選ばれました。

→和泉川に関する「水辺を楽しむ」の記事はこちら
地蔵原の水辺 和泉川親水広場

→土木学会デザイン賞2005受賞記事はこちら(土木学会ホームページへリンク)

By JRRN事務局 | カテゴリ: 自然豊かな河川再生事例まちづくりと一体の河川再生事例
東 | コメント0 | トラックバック0 |

図 事例の掲載イメージ

(3)今後の予定

河川再生に関する 211 事例の素材を取り揃えることができました。今後は、文章に見合う画像を早々に収集し、JRRN の HP へ掲載する予定です。また、あわせて国内の河川再生事例を英訳したものを ARRN の HP へ掲載する予定です。

5 月末ころを目処に段階的に掲載する予定ですので、お楽しみにお待ちください。掲載した内容について、ご意見などございましたら JRRN 事務局までよろしくお願いします。

(JRRN 事務局 丹内道哉)

寄稿記事

日本橋川の舟めぐり モニターツアー開催報告

寄稿者：野地茜（NPO 法人 東京中央ネット・JRRN 会員）

4月16日（木）～20日（月）の5日間、日本橋川を周遊する舟めぐりを実施いたしました。今回の運航は、日本橋川流域の地域活性化と観光資源開発を目的とし、（財）河川環境管理財団の河川整備基金の助成を受け行われました。開催結果をご報告いたします。

1日に2便、全10回の運航を行い、船長とガイドスタッフが同乗し日本橋川流域の観光資源や日本橋の歴史について御案内しました。常盤橋防災船着場を基点とし、日本橋川を下り亀島川、隅田川へ出て、再び日本橋川を上る1時間程の周遊ルートです。



運航には、カリフォルニアのDuffy Electric Boat社製の12人乗り電気ボートを使用しました。私たちが使用したボートは、充電された電気によってモーターを駆動させるもので、エンジン音がなく排気ガスも発生しません。家庭用コンセントからの8時間程度の充電で約10時間の連続航行が可能となります。大変静かですので、エンジン音がガイドの邪魔にならず、観光船には最適です。

今回のモニター運航では、計76名の方にご参加頂きました。乗船後のアンケート結果では、東京都や千葉、神奈川から訪れた参加者がほとんどでした。

「あまり気に留めていなかったが、日本橋川流域に

はとても貴重な歴史資源があることを知った」、「普段は車や徒歩で見ていた景色も川面からの視点では、また違って見えた」など御感想を頂き、都心の川をととても新鮮に感じて頂けたようでした。



また、橋の下を舟が通ることによって、川に目をつける方が増えたのではないかと思います。日本橋は、元来川を中心に栄えた地域でありました。今の日本橋川は、高速道路に蓋をされた影の薄い存在です。

観光事業としての舟めぐりを通じて、多くの方に都心の河川に興味を持って頂けるよう、今後も事業を展開していきたいと考えております。



会議・イベント等 (2009 年 5 月以降)

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

■ 第 3 回 JRRN 河川環境ミニ講座「環境流量からみえるアジアの風土性」

- 日時： 2009 年 5 月 13 日 (水) 15:30-17:30
- 会場： 財団法人リバーフロント整備センター 会議室
- 主催： 日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)

(その他の河川再生に関する主なイベント)

■ 多摩川春のアユまつり

- 日時： 2009 年 5 月 2 日 (土) 11:00~12:00
- 会場： 川崎市多摩区二ヶ領宿河原堰 右岸
- <http://www.a-rr.net/jp/event/02/1248.html>

■ 外来魚駆除釣り大会 in 淀川 2009

- 日時： 2009 年 5 月 10 日 (日) 10:00~15:00
- 会場： 淀川左岸河川敷・城北ワンダー帯
- 主催： 琵琶湖を戻す会、城北水辺クラブ 他
- <http://www.a-rr.net/jp/event/02/1228.html>

■ 第 132 回 河川文化を語る会「川と防災 ～浸水と親水を考える～」

- 日時： 2009 年 5 月 16 日 (土) 14:00~16:00
- 会場： 防府市地域協働支援センター
- 主催： (社) 日本河川協会
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/1200.html>

■ やってみよう水生生物調査 in 平成の名水百選！

- 日時： 2009 年 5 月 24 日 (日) 13:30~16:30
- 会場： 南沢湧水及び落合川等
- 主催： 柳瀬川流域水循環市民プロジェクト研究会
- <http://www.a-rr.net/jp/event/02/1236.html>

■ 東京大学と清華大学による合同シンポジウム「河川・海岸における防災と環境保全の調和を目指して」

- 日時： 2009 年 6 月 4 日 (木) 9:00~17:30
- 会場： 東京大学本郷キャンパス 工学部 1 号館
- 主催： 東京大学工学系研究科
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/1250.html>

■ 第 133 回 河川文化を語る会「流域をつなぐ『旭川源流の碑』～伝え、つなぎ、続ける流域連携活動～」

- 日時： 2009 年 6 月 18 日 (木) 18:00~20:00
- 会場： シェーンバッハ・サボー (砂防会館)
- 主催： (社) 日本河川協会
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/1210.html>

冊子・ビデオ等の紹介

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1 (2009.3 発刊)

- ・ 発行：アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)
- ・ 価格： 無 料



ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

■ 水辺のミュージアム vol.2 (2009.1 発行)

- ・ 発行：(財)リバーフロント整備センター
- ・ 価格： 無 料



全国の「水辺」にかかわる資料館・博物館を紹介した冊子「水辺のミュージアム」の第二弾が発行されました。一見して捉えにくい水辺の魅力や展示方法をわかりやすく紹介しています。

本書をご希望される方は、「(財)リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。 電話：03-3265-7121 / Fax：03-3265-7456

事務局からのお知らせ

JRRN の活動にご関心のある方、また国内外の河川再生の情報に興味をお持ちの方は、是非 JRRN にご加入下さい。会員資格は下記の通りです。

■ JRRN の登録資格

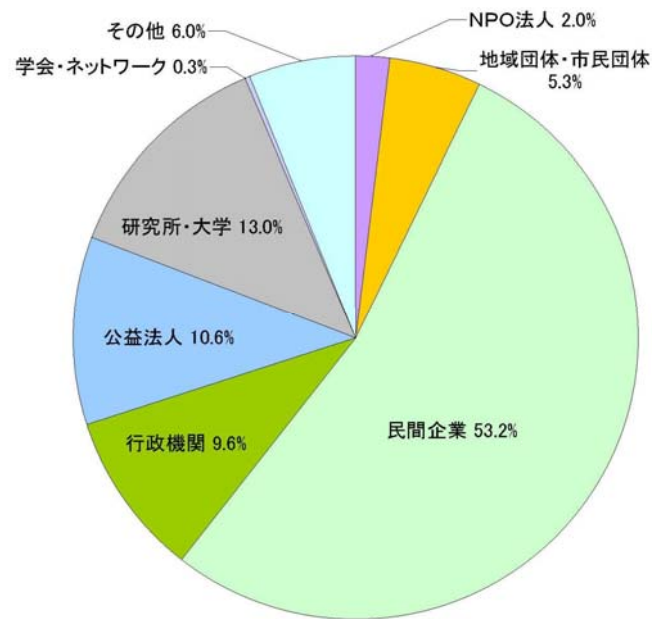
JRRN への登録は、個人、団体を問わず無料です。

市民団体、NPO 法人、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、積極的に河川環境の整備・改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。



2009 年 1 月 31 日時点の個人会員構成

【発行・問合せ先】

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) 事務局

財団法人リバーフロント整備センター 企画グループ 内
〒102-0082 東京都千代田区一番町 8 番地
一番町 FS ビル 3 階

Tel: 03-3265-7121 Fax: 03-3265-7456

E-mail: info@arr.net

URL: <http://www.arr.net/jp/>

■ 会員登録方法

以下のホームページより個人・団体会員登録が可能です。

<http://www.arr.net/jp/info/member.html>